

## 取扱上の注意

1. ゴム手袋を着用のこと（必要に応じて長靴も着用）
2. 防薬帽子またはマスク、防薬メガネを着用
3. 防毒マスク着用（有機溶剤系）
4. 防薬作業着を着用（防水性のあるもの）
5. 手や皮膚などに触れたら、よく水で洗い流す
6. 目に入ったら流水で十分に洗い流す



## 使用上の注意

1. 衣服・絨毯・カーテンなどの繊維製品は脱色する場合がありますので、養生など充分注意する
2. 酸性の洗剤などと一緒には使ってはならない。塩素ガスが発生し、大変に危険である

## 施工上の注意

1. 施工前に段取り良く、工具類の準備をし、確認しておく
2. 防菌加工の服装にする。開口部は無し（袖口などはゴムでしめる）
3. 施工時はかならずマスク、めがね着用
4. 手袋なしでカビに直接触れないこと
5. カビをブラシでは、絶対にこすらないこと
6. カビを散らさないように注意する
8. 水道栓等の金属部にはビニールフィルムなどを使用して養生する
9. ものによっては脱色する場合がありますので、パッチテストを必ず行う
10. 重度のカビに汚染されている箇所は、カビサールを繰り返し吹きつけ、しばらく放置する
11. カビサールでよくカビを取り除いたら、約20～30分後に水でよく洗い流す
12. 施工後、スプレーガンのノズルなどの工具はよく水洗いしておく
13. 施工終了後は、必ず洗顔とうがいをする

## 外壁の除カビ（殺菌・洗浄）施工例

### 第1段階：準備段階

1. 隣家などに迷惑のかからないよう注意。
2. 雨カッパ、ゴム手袋を着用。
3. 壁面に足場を組む。
4. 隣家やまわりに噴霧した薬剤が飛び散らないよう、安全養生（保護）ネットを張る。



5. 外壁の石材の部分はカビと共に苔等がついている場合が多いので、はじめに高圧洗浄機等で表面についている苔類を取り除く。

#### 第2段階：除カビ・殺菌

6. 防毒マスク、防薬メガネを着用
7. カビサールを流れるように塗布する。  
特に外部の場合、飛沫が遠くに飛ばないように注意する。  
※コンクリートや石材などは、カビ・苔類などが共生したり幾層にも重なって、特に外壁では紫外線の影響や大気汚染物質などで固く、“こびりついて” いるので、事前に流水で十分に濡らせて、汚れや苔類を浮かせてからカビサールを使うようにすれば無駄が出ない。
8. カビサールが十分に吹きつけられたら、そのまま15分程待つ。
9. 15分程経過した後、よく点検をする。まだカビや藻が残っている場合には、工具の先端のノズルを棒状に出るように調節して、50～70 cm位の距離で残っているカビに強く吹きつける。
10. 約10分間待つ（これでほとんどのカビは消滅するが、重度のカビの場合は、壁材の中に二重・三重に巣くっている場合があり、その時はより時間と手間をかける）。

#### 第4段階：後処理

12. 手・顔を水でよく洗い、うがいをする

#### <注 意>

この後、防カビ工事を行うが、使用溶剤である“モルシール”は希釈剤が有機溶剤のため、出来る限り施工箇所の乾燥状態が良いことが望まれる。この除カビ殺菌、洗浄工程から、次の防カビ工事まで十分に自然乾燥の取れない場合、温風機や逆赤外線ヒーターなどによる強制乾燥を行う必要がある。